

事件から数ヶ月のち、獄中の天泣から4人に手紙が届いた。

“

みなさん元気になっていますか？
つゆもあけて、晴れが増える時期ですね。
けっいてきな証拠で逮捕されたからか
ていこうもなく刑務所で己の務めを果たしています。
苦が無いわけではないけれど
れんらくの手段をこうして用意してもらえたり、不自由は感じません。
手はあの頃と違い作業で黒ずんでいるけれど
あの時の毒に染まった手より、少しは綺麗になったかな…
理不尽ばかりの世界で生きていくのは難しいけれど
我慢も強いられる社会だけれど、世界には自分を助けてくれる手も沢山あることを
ときどき思い出して、絶望に囚われずに生きて下さい。
うつむいた顔より笑った顔の方がみなさんには似合いそうです。

”

それからのち、服役を終えた天泣を4人は変わらず受け入れた。
天泣の服役中、4人の尽力で医院も存続させ、また神社との間に“雨冠の小道”と名付けた
四季折々の7色の花が咲く日本庭園風の小道を作り、永く撮影スポットとして賑わいを見せた。
雨の名を冠した5人がその後どう歩んだかはどこにも記されていない。

雨冠 晴れ間の雨と瞬きの虹

—end—

Thank you for your reaching !!!

produced by kanata-W